

3.11を忘れない：みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

「復興を担う女性たち」
「希少なパステル染めを、
気仙沼の人の手で育てていきたい」
株式会社インディゴ気仙沼

インディゴ気仙沼は、天然インド藍を使った染色サービスとオリジナル商品を制作販売する会社です。始まりは、2015年に代表の藤村さやかさんが子育てサークルの友人2人と「子連れで働ける職場を」と立ち上げた染色工房でした。「インディゴ」(*)は気仙沼の海の青をイメージさせる。染色の作業なら乳飲み子をおんぶし、空いた手でできる。そう話し合っ

てスタートしたんです。しかし染色は全員未経験。先達に教えを請いながら、自分たちが作りたい染めを探す毎日。最初は徳島産の藍に人工的な触媒を加える「化学建て」を試みましたが、1年後にインド藍の天然建てに切り替えます。その間もストールやTシャツを染めて販売し、徐々に従業員に給料を出せるようになりました。

さらに子どもに着せて安心な商品を作ろう。そのためには自分たちの目で確認した原材料を使いたい」と、日本で藍染めに主に使われるタデ藍の栽培にも取り組みます。しかし夏の短い気仙沼では思うように育たず、藤村さんたちは寒い地方でも育つインディゴ植物を探します。そうして、気仙沼の気候に適した作物として着目したのが、現在、フランスのトゥールーズ付近の狭い範囲のみで生産されているパステルでした。

藤村さんたちはさつそく種を取り寄せて植え、発芽、葉の収穫と一つつつ作業を進めながら、パステルが気仙沼の気候に合っていることを確かめました。「染めるなら気仙沼で育てた植物で染めたい」と考えての挑戦でした。

一方でパステル染めによる商品の販売先も確保しました。「いま、収益の大部分はインド藍の事業によるものですが、これをパステルの事業で成り立つようにしたいし、海外にも販路を開きたい」と意欲を見せます。

3人で始めた工房は現在、パステル栽培を担う農家を含め9人に増えました。「自分の事業だと思ったことはない。気仙沼のパステル染めを、ワインのように気仙沼の風土を体現した商品に育て、いずれは地場産業としてまちの皆さまにお渡ししていければ」。

震災発生から8年。「新しい建物が増え、まちに色彩が戻ってきた」と藤村さんは喜びます。インディゴ気仙沼が染める青や水色も気仙沼のまちを彩る色の一つ。その魅力が国内外に広まることを願って、インディゴ気仙沼の挑戦は続きます。

情報提供／みやぎ生協(作成：2019年3月)

※インディゴ／
鮮やかな藍色を作り出す染料
●株式会社インディゴ気仙沼
<https://www.indigo-ksn.com/>



▲インディゴ気仙沼の工房で、藤村さやかさん(左)とスタッフの遠藤千幸さん。天然インディゴで染められたワークエプロンやストールなどの商品が展示されています。



▲天然インディゴ染めのストール。気仙沼の海をイメージさせる様々な青が魅力です。(写真提供：株式会社インディゴ気仙沼)

(一社)やまぐち食の安心・安全研究センター報告 3月

一般社団法人やまぐち食の安心・安全研究センター生協検査部門では、生協独自判定基準に従って、宅配・店舗・夕食宅配取扱商品の抜き取り検査等を行っています。



【微生物検査】

宅配商品89検体のべ281項目(一般生菌数/大腸菌群/大腸菌/黄色ブドウ球菌/サルモネラ属菌/腸炎ビブリオ)

3検体3項目のコープやまぐち基準超過あり、取引先に改善指導。

店舗商品20検体のべ65項目(一般生菌数/大腸菌群/大腸菌/黄色ブドウ球菌/腸炎ビブリオ)

2検体2項目のコープやまぐち基準超過あり、取引先に改善指導。

※その他、夕食宅配19検体のべ57項目の検査を実施。

【理化学検査】

生協不使用添加物、成分分析等の検査:宅配商品1検体のべ3項目。

結果は全て良好。その他、依頼検査1検体のべ3項目。

残留農薬検査:宅配商品24検体のべ5,162項目、店舗商品7検体のべ1,531項目。結果は、すべて良好。

※その他、夕食宅配4検体のべ876項目、その他の依頼30検体のべ6,563項目の検査を実施。

■詳しい結果はホームページで月次報告中。

コープ子育てひろばのお知らせ

子育てひろばは赤ちゃん・未就学児を対象にした、
出会いの場・ふれあいの場です。

参加予約は不要。いつ来ていつ帰ってもOK ただし、気兼ねなく使っていただくため、光水熱費やドリンク代、保険の一部として利用料1家族1回100円をいただきます。

催し物は特にありません。

絵本やおもちゃなどの遊び道具はありますが、基本的にノンプログラムで、のんびりくつろげ、自由に過ごせる空間を提供する場です。

先輩お母さんのスタッフさんがサポートします。

専門家ではありませんが、子育ての悩みなどに対して、経験を聞いたりすることで気が楽になることもきっとあるはず。

今月の日程 10:30~13:30(周東・岩国センターは10:30~13:00)

5/9(木) 「とくやま店組合員集会所」(周南市)

5/10(金) 「萩センター組合員集会所」(萩市)

5/14(火) 「周東センター組合員集会所」(田布施町)

5/16(木) 「厚狭センター」(山陽小野田市)

5/20(月) 「岩国センター」(岩国市)

6/25(火) 「はおもにい〜」(小郡店前) (山口市)

5月は
お休み

次回
6/6(木)



お問い合わせ：☎ 0120-27-5520

※ホームページでは会場の地図も掲載しています。

第44回 生協まつり inきららドーム

県内各地の組合員さんや日本各地の生産者・メーカーさんが集う生協まつり。今年も皆さまのおかげで盛大に開催でき、約15万人の方にご来場いただきました。一部ではありますが、当日の様子をご報告します。



このお面を作ったよ!



ここと一緒♪



▲お祭り横丁では様々なゲームで大盛り上がり!



▲子どもから大人まで喜ばれたわがしコーナー。



◀「ここパーク」では乳搾り体験が大人気!

リサイクルコーナー。▲遊休品のご協力ありがとうございました。食品の一部はフードバンク山口に寄贈させていただきました。



▲美味しいうどんでおなじみの組合員食堂。

薫樹販売ブースでは、来場者さんとおしゃべりを
▼楽しむ生産者さんの姿も。



▲北海道から駆けつけてくださった「つるい牛」生産者の三沢さん(右端)、関さん(右から二番目)と。



フードドライブご協力ありがとうございました!

家庭で眠っている食べない食品を寄贈していただき、食料の必要な方へ届ける活動「フードドライブ」を、フードバンク山口のブースにて実施。2日間で49名の方が寄贈くださり、「最近活動のことを知りました。がんばってください」等の励ましの言葉を多数いただきました。



実績
人数:49人
食品の総重量:約72.4kg
品数:240品

夏のもずく産地交流会 参加者募集

コープやまぐちでは定期的にメーカーさんによる商品学習会や実際に産地に赴いての見学や交流会を行っています。

今回は「恩納村産もずく」の産地である沖縄への産地交流会の参加者を募集します。もずくの生産やサンゴ礁再生事業を支援する「もずく基金」の取り組みを学び、夏休みの思い出づくりに親子で参加してみませんか。



▶干潟の生き物
観察



▲昨年参加者の皆さん

◀もずくの異物除去体験

日程 8月20日(火)~22日(木)(2泊3日)

参加対象 もずく基金対象商品を利用している
組合員さん親子ペア3家族
(1家族=大人1人・子ども1人[小5~中3])

参加費 1家族50,000円 (食事・宿泊代交通費含む) 集合解散 最寄りの新幹線停車駅

応募方法 「応募しようと思った理由や参加への想い(400字以内)」と、「もずく基金対象商品に付いている「もずく基金マーク」3枚を同封の上、右記宛先までお送りください。

※参加されるご家族には、「もずく基金」等の事前学習会にご参加いただけます(7月下旬~8月上旬のうち1日2時間程度)。

内容

●もずくとサンゴの学習●生産者との交流●グラスボートで美ら海の見学●海ぶどう養殖場・もずく加工場の視察●サンゴ移植体験●沖縄料理体験●シュノーケリング体験(子どものみ)●沖縄美ら海水族館見学●コープおきなわ店舗視察●国際通り見学など(内容は変更になる場合がございます)



締切

5月17日(金)

※6月7日(金)までに結果を連絡します。

応募先

〒753-0872 山口市小郡上郷901-21
生活協同組合コープやまぐち
組合員活動グループ「もずく交流会係」宛

お問い合わせ 組合員活動グループ
TEL 0120-27-5520(平日9:00~18:00)

サンゴの台座にメッセージを書きました。

